

I 調査、予測及び評価の手法

I-1 調査手法

項 目	調 査 方 法・調 査 地 点
土壌(表土)の状況	・ 調査対象地域の 45 地点において、地形・地質、植生の状況に応じて、試坑断面調査と理化学性の分析を行い、また現地踏査、観察により土壌分布を把握した。 ・ また環境保全機能の観点から調査対象地域における土壌の特性を解析した。

I-2 予測及び評価手法

1) 工事中

項目	土壌(表土)の状況
予測	予測対象地域:調査対象地域 予測時期:工事中(工事最盛期) 予測方法 ・表土・転石・汚濁水等の流入そのものを回避あるいは低減させるための措置を具体的に示すとともに、当該措置の効果が既存の知見により十分な確実性を有している点について解説することにより予測した。
評価	講ずることとした保全対策において実行可能なより良い技術が取り入れられているかどうかを検討することにより評価した。

2) 存在

項目	土壌(表土)の状況
予測	予測対象地域:調査対象地域 予測時期:事業実施後(存在影響がほぼ確定する時期) 予測方法 ・計画案から、攪乱・埋没・被覆等により土壌(表土)が従来の機能を失う区域を明確にし、事業実施後の土壌(表土)の状況を、事業により失われる土壌の環境保全機能の評価値をもって予測した。
評価	以下の観点から、直接改変等に伴う土壌特性の変化が事業者の実行可能な範囲内で、できる限り回避・低減されているかどうかについて、講ずることとした保全措置の効果を前提として評価した。 ・直接改変等による環境保全機能の高い土壌分布地の消失を回避もしくは低減する。